

授業科目名	地球環境共生演習（3）未来の暮らしと社会 をデザインする	単位数	2
担当教員名	石田 秀輝	担当形態	単独
実務内容			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎が掲げる共生科学5つの柱の一つである環境を基盤に未来の子供たちへのバトンとはいかなるものなのかを、未来の暮らし方のかたちという切り口で考える。特にアントロポセンの環境危機という視点で、現在の資本主義（金融資本主義、グローバル資本主義、新自由主義）が地球環境の劣化と表裏の関係にあり、暮らし方の本質が問われている時代にあることを認識し、自然を土台にした豊かな暮らしの本質とその具体的な創成を実習を通して学び、考え、実践できる人材を育む。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球環境の劣化と現在の資本主義の劣化の現実と因果関係を理解する</li> <li>2. 未来の暮らしを描くためのツールとしてのバックキャスト思考を理解する</li> <li>3. 沖永良部島をフィールドに自然と寄り添う暮らしの歴史と実際を理解する</li> <li>4. コロナ禍を題材に未来の制約を明らかにし、制約の中で豊かであるという暮らし方のかたち（ライフスタイル）を提案する</li> <li>5. ライフスタイルの集合体から未来の社会をデザインする</li> <li>6. 未来の社会デザインを土台にFuture Marketingを行い、未来に求められる価値（ビジネスを含む）を抽出する</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>2020年12月、人間が作り出した建物や造形物の総量が自然界のすべての植物や生物量の総和を超えた、アントロポセンの危機である。このままでは、数十年のうちに現代の文明が限界を迎えることは確実である。では、何か新しいテクノロジーがこの問題を解決してくれるのか、否、過去の歴史がそれでは解決しないことを証明している（エコジレンマ）。解は、暮らし方のかたち（ライフスタイル）を変えるところにしかないのである。それはどのような暮らし方のかたちなのか？ 地球に負荷を掛けず、心豊かに暮らすことは可能なのか？ その原点は自然の循環の中で暮らすことにあり、沖永良部島というフィールドの中で、その歴史、現在の暮らしを学ぶ中にその可能性を見つけたい。無論、それは昔に戻ることはない、見つけた可能性をバックキャスト手法などの最先端理論を用いて、未来に求められる価値に変換し、より具体的に実践できるものにする。</p>			

## 授業計画

- 第1回：今、何を考えねばならないのか？ アントロポセンの時代
- 第2回：地球環境の劣化と資本主義社会の劣化
- 第3回：エコジレンマと脳科学
- 第4回：バックキャスト思考とフォーキャスト思考
- 第5回：心豊かな暮らし方のかたち
- 第6回：コロナパンデミックから学ぶ個のデザイン
- 第7回：沖永良部島の自然・文化・人・暮らし方のかたち I
- 第8回：沖永良部島の自然・文化・人・暮らし方のかたち II
- 第9回：バックキャスト手法でライフスタイルを描く I
- 第10回：バックキャスト手法でライフスタイルを描く II
- 第11回：バックキャスト手法で社会をデザインする I
- 第12回：バックキャスト手法で社会をデザインする II
- 第13回：Future Marketing I
- 第14回：Future Marketing II
- 第15回：未来のライフスタイルとビジネス提案

第1回から3回までの概要は資料をあらかじめ配布し、事前学習を行う

## スクーリングでの学修内容

全15回のポイントを2日間のスクーリングで整理するとともに、特に9-15回で予定している、ライフスタイルデザイン、社会デザインをディベートなどを通じて理解を深める。

## 参考文献：

- 石田秀輝「危機の時代こそ、心豊かに暮らしたい」KKロングセラーズ 2021
- 石田秀輝「バックキャスト思考で行こう！」ワニブックス 2020

## 学生に対する評価

スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。